

那賀川中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「生徒自らの言葉で説明する表現力の育成」
- ②「基礎学力定着のための家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	教諭・研修主任:吉原 智映
教諭	校長:遠藤 直人	教諭・1学年主任:谷 賢治
吉原 智映	教頭:長尾 彰	教諭・2学年主任:齋 浩市
	教頭:上岡 有里	教諭・3学年主任:佐坂 千絵

校長

遠藤 直人

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

生徒の学習アンケートや教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語や数学の基礎的・基本的な知識・技能については身に付いている生徒が多い。 ●基礎学力定着のための家庭学習をする者としての差が大きく、知識・技能の定着に個人差が見られる。	・学習に意欲的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けることができている。	・「目標」「まとめ」カードを活用して、目標を示し、振り返り活動の工夫をする。 ・生徒の分かりやすい授業展開のために、他学年、他教科の授業見学を実施する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真剣に取り組む、質問や指示されたことについては前向きに考えることができる。 ●課題解決に向け、原因・結果などを思考したり、解決方法を自らの言葉で表現したりすることが苦手である。	・自分の考えを、間違いや失敗を恐れず、その根拠や理由を明らかにしながら、自らの言葉で表現することができる。	・授業でホワイトボードやICTの活用方法を工夫して、思考力・判断力を深め、生徒の表現力の育成を図る。 ・読書週間を定期的に設定し、感想を文章にまとめる活動を取り入れて、言語活動の充実を図る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○大多数の生徒は、授業にまじめに臨み、一生懸命にノートを取り、前向きな意欲が感じられる。 ●家庭学習の習慣化と生徒の自主性が不十分なため、予習・復習等の家庭学習時間が少ない。	・自主勉強ノートを活用することで、学習意欲を高めるとともに、家庭学習習慣の確立を図る。	・各教室に「学力向上コーナー」を設けて、効果的な学習法と優秀な自主勉強ノートの紹介をする。 ・「学習のてびき」を面談やホームページ等を活用して、各家庭への普及に努める。			

令和3年度 学力向上ロードマップ



